

教師ノート

| | |
|--|---|
| 日付 | 2022年 6月26日 |
| 単元 | 創世記・2 |
| テーマ | 罪の結果と救い |
| タイトル | 人間と罪・2 |
| テキスト | 創世記 3:7-24 |
| 参照箇所 | ローマ 5:12,18、16::20、エペソ 2:3 |
| 暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) | ローマ 3:23-24 |
| AG 日曜学校教案参照箇所 | 小上 3 巻 3 題 2 課、中 2 巻 1 題 1 課 |
| メモ(情報・例話など) | <p>今月のメッセージは、ともすれば罪と裁きの内容に偏ってしまいます。もちろん神さまが罪を嫌われるということや、罪の結果として神さまの怒りを受けることは強調されなければなりません。しかし、同時に神さまの愛と救いの計画について語っていくことが大切です。神さまは罪を嫌われますが、人を愛されます。暗いメッセージになったり、怖い神さまのイメージだけが印象に残ったりしないように心がけましょう。バランスのとれた、希望をあたえるメッセージとなるように準備しましょう。</p> |
| □導入 | <p>興味を起す質問をしましょう。</p> |
| 例1: | <p>食べてはいけない実を食べてしまったアダムとエバ。このことが神さまにバレない・・・ハズがない！彼らはそのあとどうしたのでしょうか？神さまは怒っているのかな？それとも・・・？</p> |
| 例2: | <p>あなたがもし、絶対に触ってはいけないと言われていたお父さんの大切な腕時計を触って壊してしまったら・・・お父さんが仕事から帰って来るまで、どんな気持ちで待つのでしょうか？</p> |
| □ポイント1 罪を犯したアダムとエバは、神さまから隠れました(7～13節) | <p>神さまに見つからないように、ふたりは木のかげに隠れていました。(ヘビが言ったとおり、ふたりの目は開かれました。とは言っても、単に自分たちが裸で恥ずかしいということが分かっただけです)。それまで人は、全く聖く責められるところがない安心感をもっていたので、いつでも神さまとの交わりを喜ぶことができたのに・・・しかし、罪を犯した後は、罪悪感と不安から、神さまの前に出られなくなってしまったのです。</p> <p>神さまは全てご存知でありながら、「食べたのか？」と質問されました。<u>人が正直に悔い改めることを望み、チャンスを与えたのです。</u>このときアダムは素直に自分から「ゴメンなさい」と言ったのでしょうか？いいえ、残念ながら、アダムは、エバの方が自分よりもっと悪い！と主張し、自分の責任を最小限にしようしました。そればかりか、神さまがそんな女を与えたのが悪いのだと、神さまのせいになろうとまでしています。同様に、エバもヘビのせいになろうと必死で言い訳をしています。</p> |
| ☞「園を歩き回られる神」は、エデンの園ではいつも神さまが臨在しておられたと言う意味ですので、神さまが歩いて探し回っていたということではありません。神さまはアダムがどこにいるかご存知でした。 | |
| □ポイント2 神さまは罰をお与えになりました(14～24節) | <p>ヘビ・女・男の刑罰が宣告されます。教師は内容を理解しておきましょう。子どもたちには、これを詳しく説明するより、アダムの罪によって人類に罪が入ったこと(原罪)を分かりやすく説明することが重要です。</p> |

へび：他の生き物より特に嫌われる存在となりました。「ちりを食べる」はみじめな敵・敗北者の姿をあらわすのでしょう(詩72:9、イザヤ49:23)。ここでへびへの刑罰は、象徴的にサタンに対するものと考えられます。悪魔はイエスさまに敵対して嘔みつきますが、かかとかみつくだけで、それを踏み砕くイエスさまの力には絶対に勝てません。

女：本来祝福されるべき出産が、女性にとっては苦痛を伴うものとなりました。また本来女性は男性の助け手であり、男性は女性と相補い合っ一つの存在であるかのようにでした。しかしその男女の間の完全な調和が失われ、支配と隷属の関係になってしまいました。(実用聖書注解・いのちのことば社より)

男：男はそれまで、彼のために造られたかのようなエデンの園で、全く心配事のない生活を楽しんでいましたが、食物のために労苦を強いられることになりました。さらに肉体の死も定められました。

アダムが罪を犯してしまったので、全ての人間は神さまに従わない罪をもつものとして生まれるようになりました。(そのことを理解するためにメッセンジャーは、ローマ5:12~18を必ず読んでください)。ひとりの人によって全ての人類が罪人となったのです。

子どもたちは、アダムが犯した罪のせいで自分が罪に定められるのはおかしいと考えるかもしれませんが。しかし実際に子どもたち自身も、自分の内に、みことばに従えない心(悪いとわかっていてもウソをついてしまう、親に従えない、等)があるのを実感しているはずです。教師自身にもそのような罪の心があることを正直に開示しながら、子どもたちも現在を自分の問題として受け止められるようにお話ししましょう。

㊦「アダムの罪によって、人間は根源的に腐敗し、神さまに従わず悪に傾く性質をもつ」というような事実を子どもに伝えるのが難しいと感じるかもしれません。人間の性質はもっと良質だと考えたくなるかもしれませんが。しかし、そのような考えは、救いの恵みの完全さを小さくしてしまうのではないのでしょうか。神さまは、その哀れみと忍耐に満ちた大きな愛で全人類の罪を十分に覆ってくださったのです。キリストの十字架をもってこの原罪の問題を完全に解決してくださったのです。この救いの充分で完全な有効性を大胆に語るため、救われなければならない理由(すなわち原罪)について、明確に伝えましょう。

㊧ケルビムは天的存在の象徴で、一般に手足を持つ有翼の像として表現されます(新聖書辞典・いのちのことば社より)。炎の剣に関して詳細は不明。どちらもエデンの入り口を守るために置かれました。

□ポイント3 神さまは救いの計画を備えてくださいました(15, 22節)

暗唱聖句を読み上げます

私たちはみな罪人です。罪人は、みな滅びなければなりません。天国で永遠に生きることができないのです(罪の報酬は死)。ですから、イエスさまは、私たちがひとりも滅びないように、私たちの代わりに死んでくださったのです。そのおかげで、私たちは滅びることなく、天国で永遠に生きるいのちをいただくことができるのです。人間はだれでもみんな罪人ですが、だれでもみんなイエスさまを信じれば救われるのです。「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです」(ヨハネ1:8~9)。初めの罪によって、私たちの心に入ってしまった罪(神さまに従わない心)を言い表し、神さまに義と認めいただきましょう。

イエスさまの十字架を、真心込めて大胆に語りましょう。十分に祈って備えることが大切です。神さまは人間に罰を与え追放しただけでなく、救いの道を備えてくださいました。15節はイエスさまについての初めの予言であるといわれ、「原福音」とも呼ばれています。

㊨「義と認められる」とは、神さまの前に正しいと認められ、問題なしのOKと受け入れられることです。

㊩ここでは「罪＝神さまに従わない心」としてしています。それは、ウソをつくことや、ケンカをすることのような「罪の表れ」の部分だけでなく、もっと根本的な罪を強調するためです。原罪をもつ自分の心をしっかり見つめるように導きましょう。

□結論 アダムの罪により、人間は罪をもつようになりましたが、神さまは全てのの人に救いの計画を備えてくださいました

□適用(聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

今日神さまにごめんなさいと言えた人の罪は完全にゆるされ、永遠の命が与えられました。これからは、自己中心(自分のワガママに従う)でなく神さま中心(神さまに従う)で生きていこう。あなたの身代わりに十字架にかかってくださったイエスさまをもう悲しませないでねっ!